

研究の成果

実エンドウ「4-1-1-1-2」の夏まき年内どり栽培

1. はじめに

露地の夏まき年内どり栽培では、「矢田早生」と「きしゅうすい」が用いられています。しかし、「矢田早生」は莢がやや小さく秀品比率が低く、「きしゅうすい」は種子の低温処理に手間がかかることや処理種子の発芽不良などの問題点があります。

ここでは、前号で紹介した早生で莢が大きい実エンドウ育成系統「4-1-1-1-2」の特性を、上記作型で検討しました。

2. 特性

(1) 開花及び生育

8月中旬には種すると、開花始めは「矢田早生」とほぼ同時期の9月中旬で、「きしゅうすい」より20日程度早くなりました。開花節位は14.6節で、「矢田早生」より3.5節高く、「きしゅうすい」より約13節低くなりました。節数は、35.4節となりました。

(2) 莢の品質

莢は「きしゅうすい」、「矢田早生」より

長く、厚みがあり、大きくて重くなりました。莢当たりの子実の粒数は、「矢田早生」より多く、「きしゅうすい」と同程度でした。

むき身歩合は、44.4%で「矢田早生」、「きしゅうすい」よりやや低くなりましたが、上物率は44.3%と、「きしゅうすい」、「矢田早生」より高くなりました。

(3) 収量

総収量は10a当たり約800kg程度で、「きしゅうすい」より10%程度、「矢田早生」より35%程度多くなりました。また、この系統は、11月前半までに総収量の95%が収穫できました。

3. まとめ

実エンドウで県下全域の安定したリレー出荷を行うためには、夏まき年内どりは重要な作型です。「4-1-1-1-2」は、莢が大きく初期収量が多いため、この作型での有望系統として期待されます。

(育種部 小畑利光)

表1 夏まき年内どり栽培での開花、生育特性及び莢品質

品種、系統	開花始め	収穫始め	開花節位	節数	一莢重 (g)	一莢粒数	むき実歩合 (%)	上物率 (%)
きしゅうすい	10/4	10/27	27.9	44.4	5.5	5.7	47.3	35.4
4-1-1-1-2	9/11	10/16	14.6	35.4	6.4	5.7	44.4	44.3
矢田早生	9/11	10/10	11.1	37.6	4.8	5.4	46.3	29.1

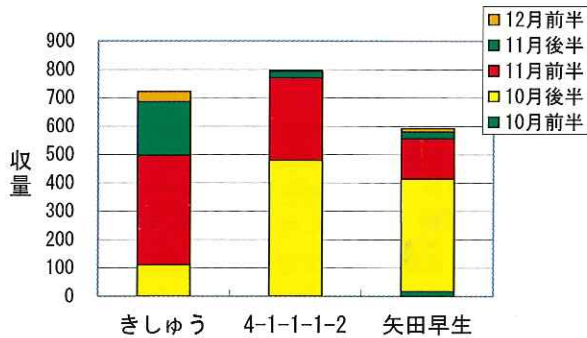


図1. 夏まき年内どり栽培での時期別収量



図2. 夏まき年内どりでの莢